

早稲田商学第 468 号
2024 年 6 月

消 息

伊藤嘉博先生のご定年退職にあたって

伊藤嘉博先生は、2024 年 3 月 31 日をもって定年によりご退職されることになりました。本稿では、これまでの先生のご経歴、主要な研究業績を紹介し、商学部・大学院商学研究科へのご貢献を改めて振り返るとともに、伊藤先生にこれまで筆者がお世話になったエピソードを記したいと思います。

伊藤先生は、1953 年 5 月に神奈川県にお生まれになり、1974 年 4 月に学習院大学経済学部を卒業後、1978 年 4 月に横浜国立大学大学院経営学研究科修士課程、1981 年 4 月に早稲田大学大学院商学研究科博士後期課程へと進学されました。後、2000 年 2 月 16 日には早稲田大学より博士（商学）の学位を受領されています。

1984 年 4 月に城西大学経済学部専任講師に着任され、1988 年 4 月に成蹊大学経済学部助教授、1994 年 4 月に同教授、2000 年 4 月に上智大学経済学部教授、2002 年 4 月に神戸大学大学院経営学研究科教授に就任された後、2005 年 4 月に早稲田大学商学学術院教授として本学に着任されました。

本学着任後は、ご専門の管理会計論・原価計算論を中心に商学部および大学院商学研究科で教鞭を執られました。大学院商学研究科でご担当の研究指導では、伊藤先生と研究領域を同じくする研究者を 3 名輩出していらっしゃいます。また、2008 年 9 月より 2010 年 9 月まで学生担当教務主任を、2018 年 9 月より 2020 年 9 月まで教務担当教務主任をお務めになり、商学部の運営のために尽くされました。伊藤先生の早稲田大学での勤続年数は、2005 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日まで 19 年間となります。

学外での活躍は、日本会計研究学会理事・評議員、日本管理会計学会副会長・常任理事・理事、日本原価計算研究学会常任理事・監事・理事をはじめ、学会の役員を歴任されました。また、公認会計士試験委員および公認会計士監査審査会専門委員として、社会的な貢献もなさいました。

先生の主要な研究業績は、管理会計論・原価計算論を中心としたものが多数あります。

その研究過程では、科学研究費を6回獲得されました。本稿では、紙幅の関係上、すべての研究業績を網羅することはできませんが、主要な単著、共著、（共）編著のみを末尾で紹介いたします。先生は、これらの研究成果および学会への貢献により、日本原価計算研究学会賞、日経品質管理文献賞（デミング賞文献賞）、余暇ツーリズム学会文献賞、日本管理会計学会功績賞を受賞されています。

伊藤先生にはじめてお目にかかったのは、1983年の秋、筆者が商学部2年次に在籍していた40年前であることを、筆者は鮮明に記憶しています。筆者は、先生の御父上の伊藤博先生が、商学部で非常勤講師として永年にわたりご担当していらした専門教育科目演習（ゼミ）を志望していました。伊藤博ゼミ選考の面接のため、指定された教室に行ってみると、誰もいません。粗忽な筆者のことで、時間か教室を間違えたかと不安に駆られていましたが、そのときに、お若い先生が教室に入って来られました。「伊藤ゼミの方ですか？」と声を掛けられたので、「はい」と答えると、「伊藤です」とおっしゃいます。伊藤博先生は非常勤でいらっしゃったので、顔を存じ上げません。瞬時に、「あ、お若い先生がご担当のゼミなのだな」と思いながら会釈をすると、面接担当の先輩たちがドヤドヤと教室に入ってきて、先生と打合せを始めました。いったん教室を出るように促され、順番に中に呼ばれて面接を受けると、後日無事に合格の発表があり、新入ゼミ生歓迎会に出席しました。

歓迎会の会場に行くと、面接当日にお目にかかった「お若い先生」はいらっしゃらず、ご年配の先生がいらっしゃいました。状況が理解できない筆者は、歓迎会の時間か会場を間違えたかと、また不安に駆られました。しかし、面接当日に面接を担当した先輩たちは同席しています。宴たけなわになったところに、席上で先輩たちに教えてもらったところ、やっと謎は解けました。伊藤博先生は面接日に海外出張のご予定が重なったので、面接だけを当時の3年生に担当させ、当時大学院商学研究科博士後期課程に在学され、かつ、伊藤博ゼミのTAをご担当のご子息に後見役を依頼された、ということでした。もちろん、最終合否については、伊藤博先生が最終決定をなさっています（でなければ、筆者の学部ゼミ合格は無効になりかねません）。

いうまでもなく、面接当日の「お若い先生」は伊藤嘉博先生で、「伊藤ゼミの方ですか？」というお言葉は、筆者が面接担当のゼミ現役生であるのかというご確認でした。筆者が「はい」と答えたのは、伊藤博ゼミへの出願者という意味でした。今顧みると、

伊藤嘉博先生と筆者の相互の発言は、意図がズレているのですが、なぜかかみ合っているような「質疑応答」となり、「伊藤です」とおっしゃる方を面接に来た筆者がゼミ担当の先生だと勘違いするのも無理はないと思います。

このようなハプニングがあり、筆者は学部ゼミの指導教員である伊藤博先生に先んずること1か月ほど前に、ご子息の伊藤嘉博先生にお目にかかっていました。その後、大学院に進学し、伊藤博先生の大学院の研究会にも参加を許され、改めて、伊藤嘉博先生とお目にかかったのは、1986年の春か初夏のころでした。以来ずっと、お世話になっております。末尾の主要業績のうち、筆者が共著者あるいは分担執筆者に加えていただいた研究成果もありますし、学会での合同発表・共同執筆論文でも一緒にすることができました。

筆者が商学部の教員に着任後、出身ゼミである伊藤博ゼミと筆者が担当するゼミとのインターゼミや合同合宿を、伊藤博先生のご定年まで行うようになりました。その後、伊藤嘉博先生が商学部でゼミをご担当されてからは、清水孝先生ご担当のゼミとともに学部内インターゼミや慶應義塾大学商学部の管理会計ゼミとの「早慶戦」を行い、学部内の管理会計ゼミ教育を盛りあげてきました。商学部において伊藤博先生と伊藤嘉博先生は親子でゼミをご担当になり、筆者は、両伊藤ゼミと一緒に、ゼミにおける管理会計教育を担当することができました。これは大変光栄なことでもあります。

そして、多くの思い出があるのは、筆者が商学部の助手として研究費で出張できるようになって以降、学会や研究出張で国内外に伊藤先生と一緒に、「旅の極意」を教えていただいたことです。とりわけ、出張先で食事をするにあたっては、全国津々浦々どころか、海外のおいしい店をご紹介いただき、一緒に舌鼓を打ったものでした。ただし、時々当てが外れ、「想定外の食事」が出てきたことも一度や二度ではなく、これは伊藤先生との間で、今でも語り草となっています。この件の詳細については、いずれ別稿でご紹介する機会があれば、まとめたいと思っています。

伊藤先生、19年間商学部および大学院商学研究科のためにご貢献いただき、ありがとうございました。また、個人的には、これまで本当にお世話になりました。今後も、ますますご健勝で、充実した日々を送られることをお祈り申し上げます。そして、また、おいしい食事と一緒にできることを、楽しみにしております。

【主要業績】

《単著》

1999年1月『品質コストマネジメント―品質管理と原価管理の融合』中央経済社。

2001年8月『管理会計のパースペクティブ』上智大学出版会。

2001年10月『コストマネジメント入門』日本経済新聞社。

2005年7月『品質コストマネジメントシステムの構築と戦略的運用』日科技連出版社。

《共著》

2001年1月『バランスト・スコアカード理論と導入』ダイヤモンド社。

2003年2月『世界標準の戦略マネジメント・ツール―バランスト・スコアカード実践ガイド』日科技連出版社。

2009年9月『スタンダード管理会計』東洋経済新報社。

2021年9月『異論・正論管理会計』中央経済社グループパブリッシング。

《編著・共編著》

1995年10月『企業のグローバル化と管理会計』中央経済社。

2001年5月『ネオ・バランスト・スコアカード経営』中央経済社（共編著）。

2001年10月『環境を重視する品質コストマネジメント』中央経済社。

2009年9月『実践 品質コストマネジメント―最小のコストで最高の品質を実現する』日科技連出版社。

2011年6月『戦略管理会計』中央経済社（共編著）。

2016年1月『サービス・リエンジニアリング―顧客の感動を呼ぶホスピタリティを低コストで実現する』中央経済社。

長谷川恵一